

尾張徳川家の雛まつり

平成29年2月10日(金)～4月9日(日)

主催 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫・中日新聞社・NHK名古屋放送局

協力 名古屋市交通局



かね ひめ

矩姫さまの雛人形・雛道具

矩姫(貞徳院・1831～1902)は福島・二本松丹羽家10代長富の三女として生まれ、嘉永2年(1849)に尾張家14代当主慶勝にお嫁入りしました。

矩姫の雛人形は、束帯姿三対・直衣姿一對・狩衣姿一對の有職雛(公家の装束を正しく考証して作られた雛人形)で、高さはおよそ30センチあります。当時製作された大名家のお雛様のなかでも、ひときわ格調高い作品です。

内裏雛飾り

有職雛(束帯姿・直衣姿・狩衣姿)	五対
五人囃子(雅楽)	一揃
犬張子	二対



内裏雛飾りとさまざまなお人形

矩姫が所持した小さな雛人形です。江戸時代の終わり頃、将軍家や御三家では、雛飾りが大奥の2～3箇所にしつらえられたといわれています。この人形たちの箱には「御内証」の貼札があり、プライベートな場で飾られたと考えられます。

有職雛(衣冠姿・直衣姿・小直衣姿・狩衣姿)	五対
七人囃子(雅楽)・三人官女・隨身	一組
色絵唐子人形 貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝正室)所用	一組
豆賀茂人形	一組

牡丹唐草蒔絵雛道具

定かではありませんが、もとは11代将軍徳川家斉が日頃愛玩した雛道具で、のちに故あって矩姫が所持したと伝えられています。

貝桶	懸盤	御所車	乗物	指樽	冠台
机飾り	見台	双六盤	碁盤	将棋盤など	

【全点一挙公開】

福君さまの雑道具

名品コレクション展示室第5室および蓬左文庫展示室「日本最大の婚礼調度」展にあわせて、五撰家の筆頭・近衛家から尾張家11代齊温なりはるに嫁いだ福君さちぎみ(俊恭院しゆんきやういん・1820~40)の雑道具を全点公開いたします。

菊折枝蒔絵雑道具

梨子地に菊の折枝を配し、所々に近衛家の家紋である抱牡丹紋と徳川家の葵紋を散りばめたデザインを施し、金具にはすべて銀が用いられています。福君の婚礼調度として伝来する、等身大の菊折枝蒔絵調度の諸道具と遜色のない精巧な出来映えを示しています。



長持 長刀 茶弁当 文台・硯箱 鏡台
櫛台 源氏簞笥 見台 乗物 など

抱牡丹紋散蒔絵雑道具



「菊折枝蒔絵雑道具」とともに、福君が所持した雑道具です。梨子地に金具と蒔絵によって、近衛家の家紋である抱牡丹紋を配し、金銅製の金具を打っています。菊折枝蒔絵雑道具と比べ寸法に多少の違いが認められますが、豪華さと格調の高さに独特の趣きがあります。

貝桶 厨子棚飾り 黒棚飾り 書棚飾り 鏡台
碁盤 将棋盤 双六盤 台子皆具・茶坊主人形 など



中村家寄贈のお雛さま

これまで所用者が分からなかった雛人形・雑道具ですが、最新の研究によって、天保7年(1836)に近衛家から齊温なりはるに嫁いできた福君さちぎみが持参した雛人形・雑道具一式と推定されました。人形の装束や冠の纓を収納する畳紙には「陽明家」(近衛家)の墨書ぼくしょがあり、女雛の表着に近衛家の家紋である「抱牡丹紋」が織り出されています。男雛の袍や随身の狩衣は尾張徳川家11代齊温なりはる(1819~39)の異母兄にあたる12代將軍家慶いえよし(1793~1853)のために織られた裂地と同じ色目と文様であり、福君が持参したのちに、將軍ゆかりの裂地を用いて新調されたと考えられます。

吉田家寄贈の有職雛

名古屋城下・本町筋で江戸地代以来、油業を営んだ旧家・吉田家に伝えられた雛人形です。有職雛で、直衣姿の男雛うちき・袿姿の女雛きよぎのほか、黒と赤の衣冠を着用した公卿、隨身きよら、そして稚児ちごが揃っており、箱書と商標により、天保8年(1837)に京都の人形司・丸屋大木平蔵で誂えられた事がわかります。大名家らしい豪華さのため、明治維新前後に尾張徳川家から、その御用をつとめた旧家に譲与されたと考えられます。



尾張徳川家 三世代にわたる雛段飾り



徳川美術館の創始者である、尾張家19代義親よしちかの夫人米子よねこ (1892～1980)、20代義知よしともの夫人正子まさこ (1913～1998)、そして21代義宣よしみちの夫人三千子みちち (1936～)の三世代にわたる尾張徳川家の雛段飾りです。数組の内裏雛を上段にすえ、三人官女、五人囃子をはじめ、節供の祝儀としてさまざまな方々から贈られた御所人形、毛植え人形などの人形、さらに多種多様の道具揃えが並べられ、江戸時代以降の大家の雛段飾りのありかたがよく示されています。

高橋博子さまの内裏雛飾り

尾張家20代義知の次女・高橋博子さま (1938～) 愛蔵の内裏雛飾りです。雪洞ほんほりや懸盤かけばんなどの雛道具には、二葉葵の文様があしらわれています。

秩父宮妃殿下ご遺愛のお雛さま

秩父宮妃殿下ちちぶのみやひでんか勢津子せつこさまは、幕末に活躍した会津松平容保かたもりの孫で、昭和3年に秩父宮雍仁親王やすひととご結婚されました。妃殿下ご遺愛のお雛さまは妹の尾張徳川家20代義知夫人正子さまに贈られました。男雛の冠は立纓りゆうえいで、装束は天皇にのみ許される黄檗染こうせんの上衣を着用しており、皇室にふさわしい格式のある雛飾りです。

さまざまな人形・雛道具

- | | | |
|-------------|----------------------|----|
| 犬張子 (犬笛) | 建中寺蔵 | 二対 |
| 市松人形 瀧沢光龍斎作 | 徳川正子 (尾張家20代義知夫人) 所用 | 一体 |
| 御所人形 | 西光庵寄贈 | 一組 |
| 染付食器 | | 一組 |



あわせがい 合 貝

貝合わせは蛤の身と蓋を合わせる遊びです。二枚貝は特定の一片としか合わないため、合貝とそれを納める貝桶は、貞節の象徴として婚礼道具の中で最も大切にされました。

- | | | | | |
|----|-----------|---|------|------|
| 合貝 | 月に芒蒔絵貝桶附属 | 徳川義直 (尾張家初代)・京姫 <small>きょうひめ</small> ほか筆 | 江戸時代 | 17世紀 |
| 合貝 | 松橋蒔絵貝桶附属 | 聖聡院 <small>せいそういん</small> 従姫 <small>よりひめ</small> (尾張家9代宗睦 <small>むねちか</small> 嫡子 <small>はるゆき</small> 治行正室) 所用 | 江戸時代 | 18世紀 |

お雛様 豆知識

雛の歴史

雛祭りは、古代中国において3月の最初の巳みの日に、水辺に出て穢けがれや災わざわいを祓わう行事が起源と考えられています。この行事は、古く7世紀にはわが国にもたらされ、上巳じょうしの節供として3月3日に行われるようになりました。平安時代には宮廷の年中行事として定着し、この日に曲まよ水の宴を催したり、桃酒を飲んだりしました。

また、自分の罪つみや穢けがれを、息を吹きかけたり身み肌みにすりつけて人形に託し、水辺に流す風習がわが国の俗信仰として古代からありました。これとは別に『源氏物語』をはじめとする王朝時代の文学作品の中では、幼い子どもたちの遊びに用いられた人形を「ひいな」と呼んでいます。これらの風習が何時の頃から始まったのかは明らかではありませんが、3月3日の雛祭りの源流となったと考えられています。

江戸時代になると、次第に雛祭りは盛んになっていきました。今日みられるような雛祭りの形式は、江戸時代の初め頃に形成されたと考えられています。

有職雛

「有職ゆうそく雛」とは、公家社会のさまざまな決まり事を指す言葉です。「有職雛」は、家柄や季節などによって異なる公家の着る装束を正しく考証して作られた雛人形をいいます。

有職雛は、男雛おとこひなの着ている装束の種類によって、「束帯そくたいびな雛」「直衣のうしびな雛」「狩衣かりぎぬびな雛」とも呼ばれます。束帯は公的な儀式の際に着用される礼服、直衣は上級の公家のちょっと晴れがましい平常服、狩衣はカジュアルな装いです。それにあわせて、女雛めひなの装束も正装じゆうにの十二単ひとえや日常の袷うちきなどが用いられています。

男雛と女雛の並べ方

伝統的には男雛は向かって右、女雛は向かって左に飾られました。現在の男雛が左、女雛が右とする飾り付けは、昭和3年(1928)に昭和天皇の即位式の時の御真影を参考にして、東京の人形業界がお雛さまの飾り位置を置き換えたことから、普及したためだと言われています。皇室が明治時代に導入した西洋のマナーに基づいていると考えられます。

五人囃子

五人囃子には「雅楽ががく」と「能楽のうがく」の二通りがあります。雅楽の五人囃子では、向かって右から鞆鼓かっこ・太鼓たいこ・笙しょう・箏ひちりき・篳篥ふえ(あるいは鞆鼓かっこ・太鼓たいこ・鉦鼓しょうこ・笙しょうこ・箏ひちりき)が一般的です。七人囃子・八人囃子などの場合も見受けられます。能楽では、謡うたい・笛のうかん(能管)・小鼓こつづみ・大鼓おおかわ・太鼓たいこの順で並べられます。

御所人形

桐材をベースに胡粉ごふんを塗り重ね磨き上げて仕上げられた人形です。子どもの穢けがれのない表情が表されています。災はらいを祓はらい、福を招く意味合いが込められています。

犬張子

犬張子いぬばこは人に似せた顔をした犬をかたどった一對の置物で、犬笛あまがつとも呼ばれます。子どもが誕生すると、その無事の成長を祈って、天児あまがと呼ばれる穢けがれや災わざわいを祓わう意味合いの人形とともに枕元に置かれました。また婚礼の際にも持参され、生涯大切にされました。